

○新たな料金体系表(基本水量を6m³とした場合)

給水管口径(mm)	基本料金		従量料金(円/m ³)	増減率	全体増減率
	金額(円)	基本水量(m ³)			
13	1,620	6	150	17.3%	19.8%
20	1,620	6	150	17.5%	
25	1,740	6	150	30.2%	
30	3,775	6	150	23.2%	
40	5,970	6	150	30.1%	
50	11,000	6	150	22.1%	

【新たな料金表の特徴】

- ①従量料金は、現在の一般用等の超過料金と同等としました。
- ②基本料金内の基本水量を6m³とし、使用量が少ない利用者にメリットがある料金表としました。

10年間で水道事業運営に必要な費用
 ⇒ 人件費
 ・備品購入費
 ・水道施設建設時の借金返済
 ・民間業者への委託費用 等
 約13億4千万円

10年間でニセコ町一般会計より繰入される金額
 約2億4千万円

10年間で水道利用者様にご負担頂く費用
 約11億円

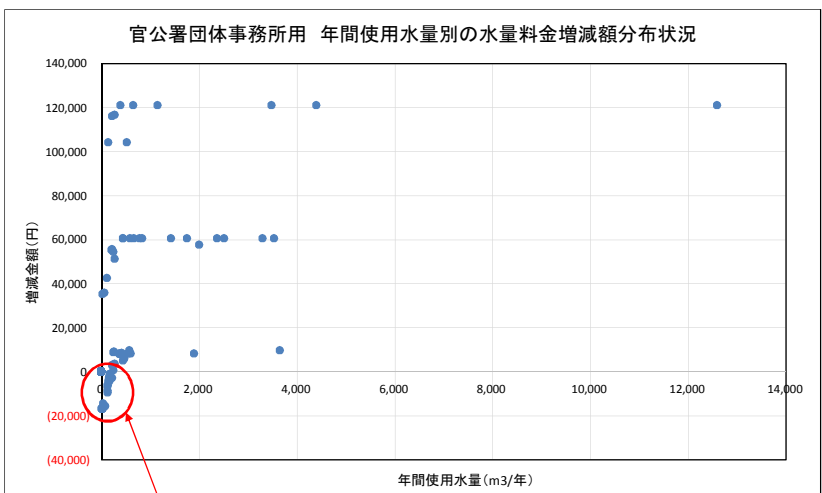
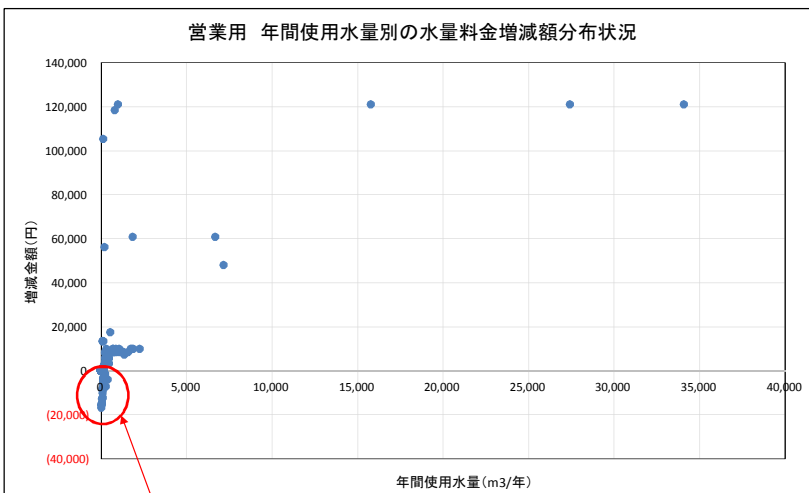
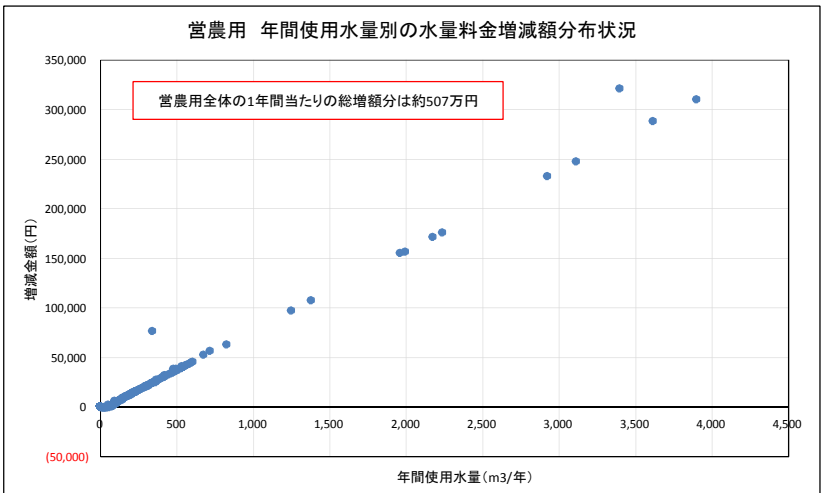
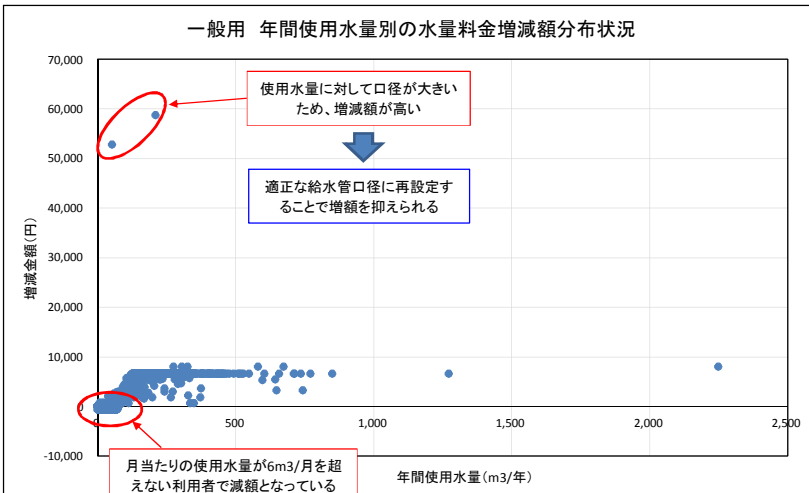
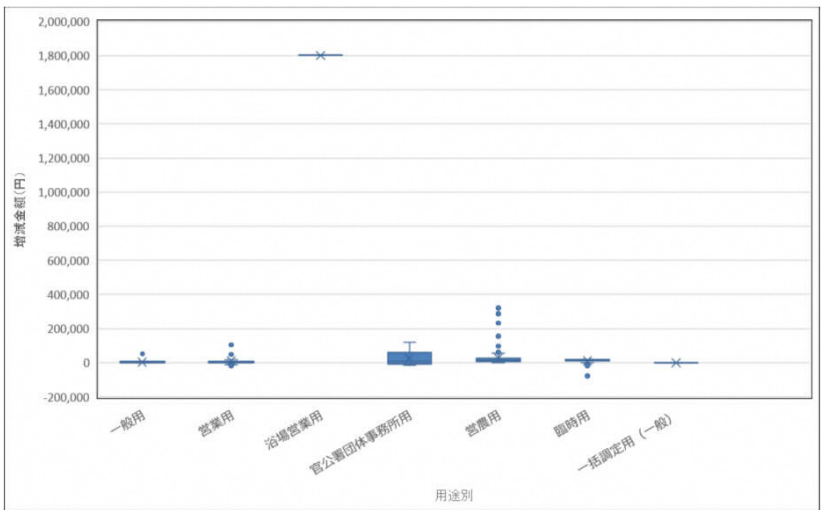
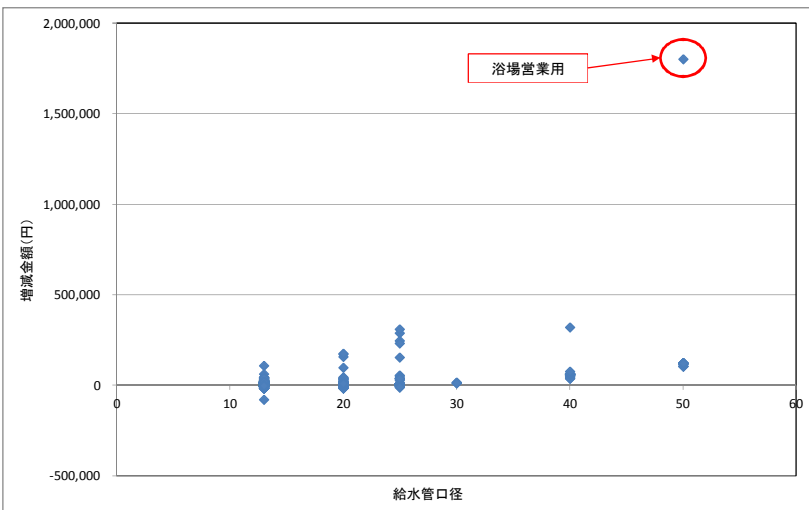
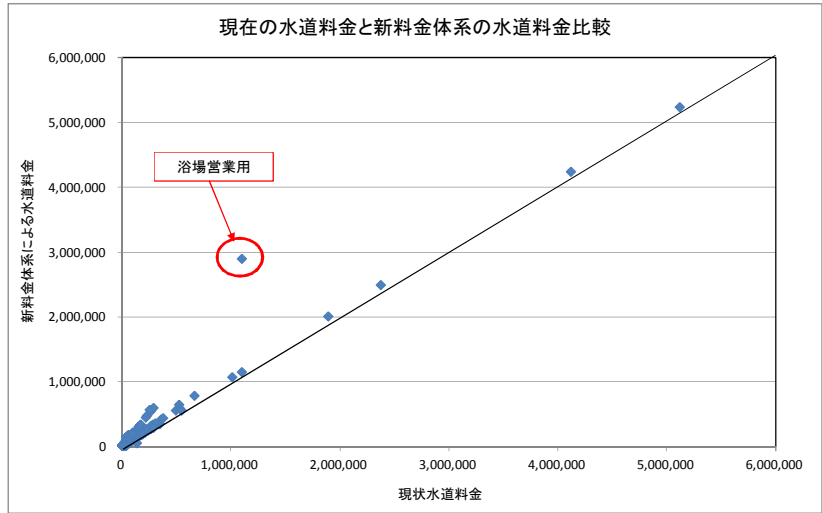
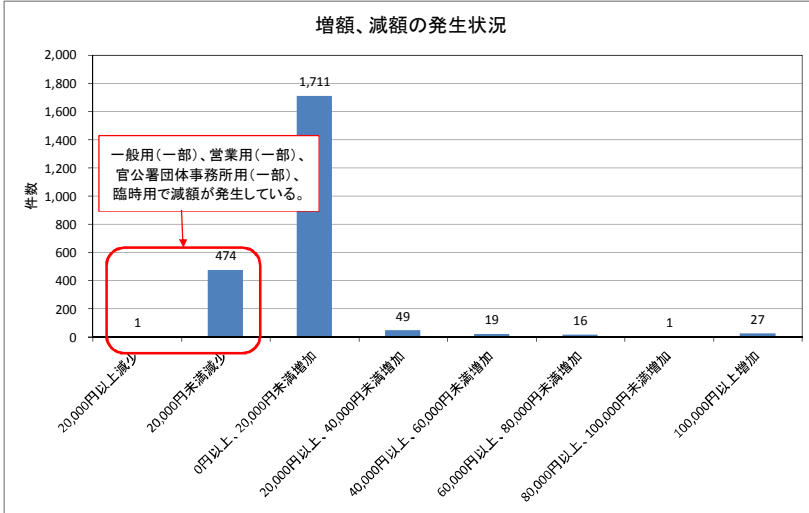
給水管の口径別に基本料金、従量料金に分配

【メリット・デメリット】

メリット・・・1ヶ月の使用水量が6～9m³の利用者(高齢単身世帯など)に特化して軽減対策が図られる
 現在、月の使用水量が10m³以下の利用者は、節水すると水道料金を抑えることができる
 節水による料金軽減効果が大きい人の対象が限定的なため、1ヶ月10m³を使用した場合の試算額は基本水量0m³案よりも安くなっている

デメリット・・・現行制度と比べて、一般用途で料金が若干減少する人がいる中で、31%も増額する人もおり、利用者全員が増加分を負担する案にはなっていない
 1ヶ月10m³を使用した場合の試算額は、基本水量10m³案よりも若干高くなる
 節水による料金削減効果の大きい人(使用水量9m³以下の人)と小さい人(使用水量10m³以上の人)の差が生じる(基本使用料までは節水へのインセンティブが働きにくい)

・現在の料金体系による各利用者の水道料金との比較結果



営業用では、基本水量20m³を含む基本料金は3,030円である事から、使用量の少ない利用者では減額になっている。

営業用と同様に官公署団体事務所用では、基本水量20m³を含む基本料金は3,030円である事から、使用量の少ない利用者では減額になっている。